経営比較分析表（平成29年度決算）

大分県竹田市　国民宿舎久住高原荘

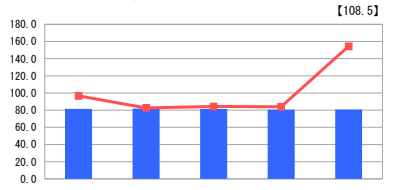
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	観光施設事業	休養宿泊施設	Ａ２Ｂ２	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**建物延面積(㎡)**	**宿泊定員数(人)**	
該当数値なし	該当数値なし	2,790	154	

客単価(円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合(%)
9,704	代行制	13.2
バリアフリー法の基準適合性	**トイレ洋式化率(%)**	**Wi-Fi設置**
有	80.0	有

グラフ凡例
- ■ 当該施設値（当該値）
- ー 類似施設平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 収益等の状況

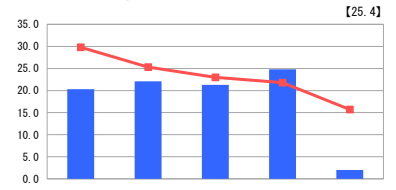
①収益的収支比率(%)　【108.5】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	81.6	81.8	81.6	80.6	80.7
平均値	96.6	82.6	84.4	83.9	154.5

「経常損益」

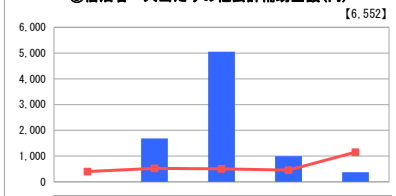
②他会計補助金比率(%)　【25.4】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	20.3	22.1	21.3	24.8	2.0
平均値	29.8	25.3	23.0	21.8	15.7

「他会計補助金割合」

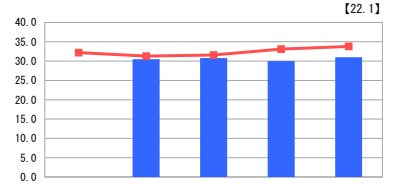
③宿泊者一人当たりの他会計補助金額(円)　【6,552】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	－	1,687	5,053	993	377
平均値	400	525	503	457	1,153

「他会計補助金額」

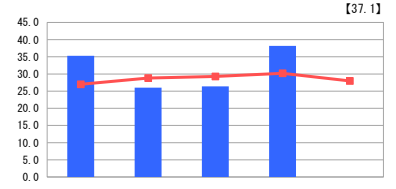
④定員稼働率(%)　【22.1】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	－	30.5	30.8	30.0	31.0
平均値	32.2	31.3	31.6	33.1	33.8

「施設の効率性」

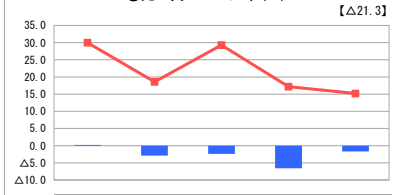
⑤売上高人件費比率(%)　【37.1】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	35.3	26.0	26.4	38.2	0.0
平均値	27.0	28.8	29.3	30.2	28.0

「人件費負担」

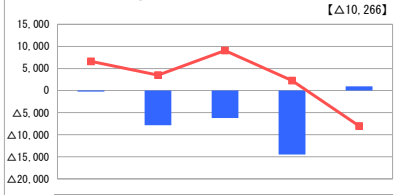
⑥売上高ＧＯＰ比率(%)　【△21.3】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	0.2	△2.9	△2.4	△6.6	△1.7
平均値	30.0	18.6	29.3	17.2	15.2

「売上高に対する営業総利益」

⑦ＥＢＩＴＤＡ(千円)　【△10,266】

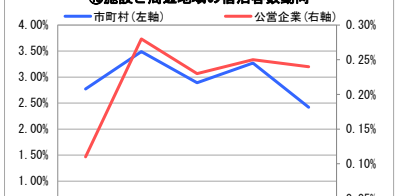


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	△227	△7,863	△6,218	△14,493	959
平均値	6,597	3,486	9,064	2,276	△8,016

「減価償却前営業利益」

3. 利用の状況

⑬施設と周辺地域の宿泊客数動向



「都道府県延宿泊者数に対する割合」

2. 資産等の状況

⑧有形固定資産減価償却率(%)

	H25	H26	H27	H28	H29
当該値					
平均値					

「施設全体の減価償却の状況」

⑨施設の資産価値(千円)
540,000

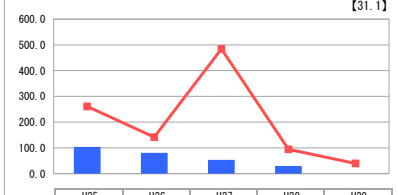
⑩設備投資見込額(千円)
22,382

⑪累積欠損金比率(%)

	H25	H26	H27	H28	H29
当該値					
平均値					

「累積欠損」

⑫企業債残高対料金収入比率(%)　【31.1】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	104.0	80.6	53.3	29.9	0.0
平均値	260.9	141.6	484.4	94.3	39.6

「債務残高」

分析欄

1. 収益等の状況について

平成24年7月の九州北部豪雨で収益が悪化し、その影響がなくなってきたところに平成28年4月の熊本地震が発生し収益が悪化しています。日本人宿泊客はリピーターに支えられており、その反面平均年齢が上昇しています。
国民宿舎久住高原荘建築費の償還が完了したため、他会計補助金比率は大幅に減少していますが、現在、経営状況改善策を模索しています。平成29年からは休前日の宿泊料金を値上げし、売り上げは増加しましたが、経費も増加しているため、収益的収支比率はほぼ横ばいとなっています。外国人宿泊客による宿泊が好調で、日本人宿泊客の不振を補っている状況です。

2. 資産等の状況について

平成29年度で国民宿舎久住高原荘建築費の償還が完了しました。今後は施設の長寿命化、維持補修にかかる経費が概算で7千万円程度見込まれていますので、計画的な施設整備が必要となっています。

3. 利用の状況について

宴会利用客数は減少しています。法事等の規模、数ともに減少傾向にあります。宿泊客数は横ばい傾向ですが、インバウンドの増加等明るい兆しも見られています。外国人のほとんどは韓国からのお客様です。最近は台湾の旅行会社等に営業を行い、韓国以外のお客様が来てもらえるようにしています。国民宿舎久住高原荘の目指すコンセプトは３つあります。
1．親近感があり、気軽に利用できる施設
2．久住・竹田観光のフラッグ施設
3．営業・販促の充実による経営安定

全体総括

経営状況が厳しいため、売り上げを向上させ経費見直しを行い黒字化を図る必要があります。
1．個人予約とインターネットを強化
2．国内営業活動の推進
3．インバウンドの推進
4．宴会、会議、婚礼利用の促進
5．イベント利用の推進
6．関係団体を利用しての販促
7．施設の管理
8．人材の育成
＊注：平成27年度末で国民宿舎直入荘事業特別会計を廃止。平成27年度までは合算数値となっており、特に平成27年度の数値については、直入荘のリニューアルに向けた施設の解体等、営業外の費用に対して、一般会計からの繰入金の収入しかないため、データの変動が大きい。